

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

伝統の美にこだわる町屋の改築

佐原の家

建築主：亀村 俊二
設計：株式会社 樹設計事務所
施工：高木 祥光
所在地：佐原市佐原イ3840

川の流れる街・香取街道沿いには歴史の匂いがたただよう。水郷佐原はかつて水路に利を得て栄えた面影を、利根川に注いで街の中央を流れる小野川河岸の船着場と、大店の軒をつらねる瓦屋根の風景に残している。このあたりは、重要な伝統的建造物群保存地区と景観形成地区の指定を受け、〔佐原の家〕亀村木材(株)もその一画にある。

施主であるご当主は4代目、家並みへの調和は街づくりへの参加、家業に関わる木材建築の粋に対する心意気、そして現代生活への配慮も大きなテーマであったはずだ。

二階建て建物改修の対象は、店舗を主とした表半分で、木材置き場が敷地奥のため入り口は横手にあり、通り沿いには明かりとり連絡格子の障子戸にガラス戸が重なり、その手前に南天の植え込みがあって町家の風情を演出している。

間取りの都合で二階に張り出した押し入れの背面が、うまく活用された看板位置、制作店探しに苦労したという金文字や、菱形に盛り上げた

漆喰の家紋が家並みに存在感を与えている。屋内に見る床張りの檜一枚板、黒く太い柿の床柱、黒炭塗りの戸ぶすまと壁、銘木と木組みの巧みさは設計者に当を得た。

水郷といえば九州柳川、小江戸では川越が引き合いにされる佐原に、いずれにも勝る生きた伝統の継承を期待したい。

(野口瑠璃)

▼ 小野川畔からの全景 (撮影 垂見孔士)

▼ 座敷と床の間



建築主：君津市
設計：有限会社 荒井設計事務所
施工：ヤマダ建設株式会社
株式会社相川精機君津支店
所在地：君津市根本地先

建築文化奨励賞

景観に配慮した建築物

斜面緑地や広場と一体化した公園施設

かずさ4号公園レストコーナー・トイレ

かずさアカデミアパークの最標高地に位置する4号公園の内側に、小粒だがおしゃれなレストコーナーを備えたトイレが出現した。

円形のモニュメント広場の中央を中心点として、展望台の斜面緑地の法麓に同心状の円弧を描き、そこに擁壁を兼ねたコンクリートウォールを設け、その基盤上に3つのトイレブースとレストコーナーが配置されている。

トイレブースの壁面を乳白色のガラスブロックで構成し、屋根をステンレス鋼板で葺いている。日中は照明なしでも明るく、外部の人の気配も感じとれ、夜間にはガラスブロックを通して、柔らかな光が浮かび上がって幻想的である。

架構はコルテン鋼を使用し、上部にステンレスワイヤーを張ってフジ棚とし、擁壁にもツタを這わせて緑化している。

要所に、自然石貼りの目隠しと風よけを兼ねた上品な穴あきの壁が配置され、自然素材とメタリックな金属材及びガラスブロック、コンクリートとの構成の巧みさなど、全体として神経の行き届いた労作といえる。

擁壁とパーゴラが緑で覆われ、背後の斜面緑地のサツキ

が満開になるころ、再度訪れてみたいものである。

地域で頑張っている設計者のひたむきな努力に対して心からエールをおくりたい。

(明智克夫)



アプローチから・夏
(撮影 荒井裕三)

光の箱のトイレブース